

氏名	栗原 はるか
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 197 号
学位授与年月日	平成27年9月16日
学位論文題目	精神科長期入院患者間の恋愛関係に伴う性的行動に対する看護師の認識

## 論 文 内 容 要 旨

※整理番号	202	(ふりがな) 氏 名	くりはら 栗原 はるか
修士論文題目	精神科長期入院患者間の恋愛関係に伴う性的行動に対する看護師の認識		
<b>研究目的</b>	<p>精神保健法制定から精神障害者の人権尊重が謳われ、精神障害者は隔離状態から地域への移行という開放処遇となってきたが、地域の受け皿の整備がまったく間に合っておらず、社会的入院と呼ばれる長期入院を余儀なくされる患者は少なくない。そのような環境のなかで、長期入院患者たちにとって病院という場所が生活の場となり、小さなコミュニティが形成されることが多い。そして、そのコミュニティの中で、恋愛関係に至る患者も存在し、時には性的行動に発展するケースもみられる。一般社会においては、2002年のWHO「性の健康と性の権利に関する定義」で、すべての人々には性的な健康と性の権利が保障されると宣言されている。しかし、精神科長期入院患者の場合、入院治療中という状況にあると同時に、長期入院による社会性の低下等により、社会生活の場から逸脱してしまう行動が認められる。そのため、長期入院患者間の恋愛関係に伴う性的行動に対して、看護師という立場からどのように関わるべきか判断に迷う場合がある。本研究では精神科長期入院患者間の恋愛関係に伴う性的行動に対する看護師の認識を明らかにし、看護師が精神科長期入院患者の「性的な健康と性の権利」に対してどのように関わっていけばよいかを考える。</p>		
<b>方法</b>	<p>研究デザインは質的帰納的研究である。研究対象者は、精神科慢性期病棟勤務経験が5年以上ある看護師8名であった。データ収集はインタビューガイドを作成し、半構成的面接法を用いて行い、面接内容はICレコーダーに録音した。録音した内容は逐語録として整理し、適宜、指導教員のスーパーヴィジョンを受けながら質的帰納的分析を行った。長期入院患者間の恋愛行動に伴う性的行動に対する看護師の認識に着目し、コード化・サブカテゴリー化・カテゴリー化について順を追って分析を進めた。</p>		
<b>結果</b>	<p>研究対象者は男性が4人、女性が4人で、精神科勤務年数は平均9.4年であった。長期入院患者間の恋愛関係に伴う性的行動に対するそれらの看護師の認識として、【恋愛と性的行動を治療や生活技能の向上に利用】【悪影響を考え恋愛と性的行動は認めがたい】【長期入院中の精神障害者が人間として顧みる時間がもてる】【看護師や病院の考えが患者の生活に強く影響】【患者の性について語り合い学ぶことが必要】の5つの上位カテゴリーが抽出された。この上位カテゴリーは、11の中位カテゴリー、52の下位カテゴリーから構成されていた。</p>		
<b>考察</b>	<p>精神科看護師は長期入院患者間の恋愛関係に伴う性的行動に対して、健康的なものであり恋愛と性的行動を治療や生活技能の向上に利用し、長期入院中の精神障害者が人間として顧みる時間が持てると認識する一方で、疾患などへの悪影響を考え認めがたいという認識もあった。その背景には、医療者として疾患が悪化する可能性を危惧するものと、精神医療の歴史的背景による患者を管理してきた看護が関係していることが明らかとなった。また、患者の性について看護師間で語られることは少なく、看護師個々で考え方や関わり方が異なっていた。現実には、患者間の恋愛関係に伴う性的行動以外にも、患者の性に関する対して看護師が関わりを要する場面が多い。しかし、長期入院患者に対する性教育や看護師教育の機会が少なく今後の課題であると考えられる。</p>		
<b>総括</b>	<p>現在の精神科長期入院患者の「性的な健康と性の権利」の保障がされているとは言い難い。これまで、国の施策に翻弄されてきた長期入院患者だからこそ、彼らにとって性の健康とはなにか、性の権利とは何かを、身近に関わる看護師は常に考えていかなければならないと思われる。</p>		

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。